

第6回 後志利別川水系外大規模氾濫に関する減災対策協議会 議事要旨

日 時 : 令和元年6月28日(金) 10:00~12:00
会 場 : せたな町民ふれあいプラザ1階多目的ホール
構成員 : せたな町長、今金町長、北海道檜山振興局長、
北海道渡島総合振興局副局長(建設部管理部担当):代理出席、
気象庁函館地方気象台長、北海道警察函館方面本部警備課長:代理出席、
北海道警察函館方面せたな警察署長、檜山広域行政組合せたな消防署長、
檜山広域行政組合今金消防署長、国土交通省北海道開発局函館開発建設部長、
狩場利別土地改良区理事長(オブザーバー):欠席

【議事】

- ① 幹事会の報告
- ② 「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画の改定について
- ③ 簡易型河川監視カメラの設置について
- ④ 重要インフラの緊急点検結果を踏まえた樹木伐採等について
- ⑤ 排水作業準備計画について
- ⑥ 美利河ダムの操作について
- ⑦ 減災対策協議会の規約改定について
(規約改定については、委員全員一致で承認された)
- ⑧ 減災に関する取組方針(案)の改定等について
- ⑨ 減災対策取組のフォローアップについて
- ⑩ 今後の予定について

【協議会委員からの主な意見】

《檜山振興局長》

- 水防災意識社会の再構築に向けて今回、北海道管理河川についても減災に対する取組方針案が整理できた。
- これらは連携した取組といったところが一番大事であるので、関係機関には御協力をよろしくお願いしたい。

《函館気象台長》

- 気象台の仕事は防災気象情報を提供することであり、避難勧告等の判断いただく基となるものである。最近気象庁から出された説明資料などで「あなたの町の予報官」という取組みを行うとしているが、これは特定の職員が担当するという意味ではなく、気象台全体で必要な情報を提供するよう体制を整えているので、危険が迫ってきた状況であれば現業へ連絡いただきたい。

《渡島総合振興局副局長(建設管理部担当):代理》

- 道管理河川の減災対策の取組については、危機管理型水位計を昨年度は1箇所設置したが、今年度は10箇所設置する予定である。また、簡易型河川監視カメラについても4箇所設置する

予定である。

○今後も道管理河川の減災対策については、各関係機関との連携を強化し進めて参りたい。

《函館方面本部警備課長：代理》

○災害発生時に速やかな対応にあたるため常日頃、資材等の準備、各訓練を通じて関係機関と連携を更に強化したいと考えている。

○また、警察本部機動隊の応援を求め、関係警察署と共に対応していく所存である。

《せたな警察署長》

○地元の警察署として災害時に必要な交通規制等に対応し、関係機関との情報共有、連携を強化して被害の防止、被害を最小限にするように努力していきたい。

《今金消防署長》

○今年度救命ボートを導入するので、災害対応力を強化していきたい。

《せたな消防署長》

○昨年度ゴムボート、救命胴衣など整備した。今後は操作方法等について、職員及び団員に講習、訓練を行い、災害時に備えたい。また、7月24日に開催される水防工法講習会には、職員及び団員を参加させ専門知識の習得を図りたい。

○災害時には消防だけではなく、警察署の協力も得ながら情報共有して対応していきたい。

《今金町長》

○何故、洪水時にダムから放流しなければならないのか、治水や発電など多目的ダムの機能を丁寧に、繰り返し説明することが必要である。町議への説明会も昨年度開催しており、地域懇談会での意見もあったので町民説明会の開催を望んでいる。

○今年11月に全国のタイムラインの大会が北海道滝川市で開催される予定。せたな町長と共に実行委員として参加し、種川地区の事例を発表することになった。また、今後は水害だけではなく地震や雪など様々な災害に対応したフレキシブルなタイムラインを作っていきたいので、関係機関にも御協力願いたい。

○避難誘導については行政での対応にも限界があるため、地域懇談会を通じて自主避難の呼びかけや、自主避難のための避難所の設置、設備の拡充を進めている。また、自主避難に繋がるようなタイムラインが一番大切だと考えているので、今後でもできることから進めていきたい。

○防災行政無線については、今年度実施設計、来年度工事実施、再来年度からの運用を目指している。

○避難勧告等は町民が本当に理解し易い、今金バージョンで言葉を統一した避難情報提供を検討したい。

○今年完成した今金町総合体育館は、防災拠点に位置付けてあり防寒対策として床暖房にした。また、自家発電機も整備しており、防災拠点の良い事例となったと考えているので、今後整備する際の参考としていただきたい。

《せたな町長》

- 今後のゲリラ豪雨等に対応するため、多目的ダムとしての限界は当然あると理解しているが、人命第一を考えて洪水調節容量を増やす検討を進めていただきたい。
- 事前放流については洪水調節に容量を多く使うことになるのであれば、今後関係者（受益者）に説明していただきたいと考えている。
- 防災行政無線については現在アナログで運用しているが、今年度からデジタル化を進める。
- 昨年の胆振東部地震を踏まえ、長期の停電の対策として避難施設の防寒対策のためにポータブルストーブの購入を考えている。災害時に迅速な避難が出来るよう、整備を進めて住民の安全を確保したい。

《函館開発建設部長》

- 本協議会の目的である大規模水害の時に人命を守ることと、被害を最小限に抑えることをしっかり行うためには、関係機関の連携は極めて重要である。本格的な出水期を迎える前に、関係者間の顔の見える関係をつくる上で、本日協議会を開催できて良かった。
- 両町長から美利河ダムについて、ご意見をいただいた。ダムは洪水氾濫を防ぐために本当に重要な働きをしてくれるが、人里離れたところにあるため洪水時に実際にその働きをみることができないことから、理解されづらい面がある。
- ダムの働き、効果をより多くの住民の方々にご理解いただくこと、効果をより高めるために更なる柔軟な運用を検討することの重要性をご指摘いただいたので、今後それらに対ししっかり丁寧に説明させていただきたい。

（以上）